

INSTITUTE OF LABOR
EDUCATION & CULTURE

30

1995→2025

教 育 文 化 協 会
3 0 年 の あ ゆ み

Digest

労働運動の躍進には教育が不可欠



友愛会創設者
鈴木 文治



日本協同組合の父
賀川 豊彦



連合初代事務局長
山田 精吾

友愛会の創設者で、日本労働運動の草分け的存在と言われる鈴木文治は、こう残している。

「～労働者の体験を加えるに、大学程度の実施する機関が欲しいのである。このようになってこそ、我が国の労働運動も盤石の重みをもち、国家もまた本当に役に立つ人材を養成できることになる。当面、間に合わせの戦いだけをしていたのでは、労働運動も大成しない。」（「労働運動二十年」より抜粋）

また、日本協同組合の父と言われる賀川豊彦は「協同組合の中心思想」のひとつに「教育中心」を掲げ、こう記している。「豊かな生活には、一人ひとりの教養とそれを高めるための教育が重要。」

ともに日本の労働運動の先駆者とされている二人は、奇しくも教育の重要性をいち早く訴えていた。

その後、戦後日本の労働運動は大きく変化していった。

東西冷戦の象徴であったベルリンの壁が崩壊した1989年11月、一つの労働団体の結成大会が行われた。日本労働組合総連合会－連合である。

この大会で示された運動方針の中に「組織にとって人材教育や専門家の育成はきわめて重要である」との認識のもと「連合教育財団（仮称）」設立の検討を急ぐと書かれていた。

翌1990年には、早くも「教育財団設立検討委員会」が設置され、具体的な検討がスタートし、1993年には「連合教育文化協会設立準備室」が設置された。

当時、連合初代事務局長であった山田精吾は、「日本の労働運動を担いうるリーダー養成を目指す連合大学」の設立に向けた検討を指示した。この構想案は、大学院の設立や海外からの留学生の受け入れまでもが含まれる壮大なものであった。

山田もまた、労働運動の躍進には、教育が重要と考えていたのである。こうして1995年、「社団法人教育文化協会」が設立された。－連合結成の6年後のことであった。

1995年

11月16日 社団法人 教育文化協会の設立総会を開催。

私たちは、広く理解を得た多くの労働組合をはじめとする広範な団体や個人からの協力、支援をもとにして、労働者教育及び教育文化活動の振興を通じて、広く勤労者の生涯にわたる学習、文化活動を支援するとともに、社会構造の変化や時代の要請に応えられる人材の育成を図り、もって、勤労者の生活及び文化教養の向上と自主的・民主的な労働運動の発展に寄与することを目的に、「社団法人 教育文化協会」を設立しようとするものです。

(設立趣意書から)



1996年

8月 写真・マンガ・シンボルマークコンテストの最優秀・ILEC賞に輝いた全日塗・久保孝ペイント労組、細川浩司さんの作品をシンボルマークとして使用することに決定。



Institute of Labor Education & Culture

3

1997年

1月31日 『連合運動史第1巻（1989年～1994年）』を発行。

6月12日 「第1期女性リーダー養成講座（東日本～14日 コース）」を開催。（静岡・ルネッサ赤沢）

11月12日 「国際協力に関する連続講座・入門編」を～13日 開催。（東京・総評会館）



1998年

4月18日 連合宮崎と共催で「ILEC文化講演会」を開催。

5月16日 「サウンド・ウェーブ'98—第1回全国職場～18日 地域音楽祭—」を開催。（東京・abc会館）



1999年



- 1月13日 「第1回ILEC幸せさがし美術展－働く仲間とその家族の公募展－」を開催。(東京・東京芸術劇場)
- 5月20日 労働者教育研究会が「Rengoアカデミー骨格(案)について」理事会へ答申。

2000年



- 9月29日 [第1回韓・中・日労働者美術展] を開催。
～ (韓国・ソウル 世宗文化会館) 韓国労働者文化協会、中華全国総工会と共催。
- 10月5日

2001年



- 2月22日 連合10周年記念シンポジウムを開催。(連合と共催)
- 5月17日 連合結成10年を機に、「Rengoアカデミー・第1回マスターコース」を開講。
(前期5月17日～26日/後期11月8日～17日 神奈川・MELONDIAあざみ野)

2002年



- 4月10日 Rengoアカデミー・第1回マスターコース修了式。(東京・総評会館)

2003年



- 6月26日 連合紹介ビデオ『連合21世紀宣言 ニッポンの働き方・暮らし方』を制作。(連合と共同制作)

2004年



- 4月15日 「連合運動への提言」第1回論文募集を開始(～8月17日)。山田精吾顕彰会による論文募集事業を引き継ぎスタート。

2005年

- 4月9日 日本女子大学に専任の教授と共に労働組合の役員が講義する「連合寄付講座」を開講。

12月7日 教育文化協会設立10周年記念演奏・講演・レセプションを開催。(東京・ホテルラングウッド)



2006年

1月15日 教育文化協会設立10周年記念「サウンド・ウェーブ2005ー第4回全国職場地域音楽祭ー」を開催。(東京・全労済ホール:スペース・ゼロ/参加者数210名)

4月14日 同志社大学で「連合寄付講座」を開講。



2007年

4月13日 一橋大学で「連合寄付講座」を開講。

10月3日 埼玉大学で「連合寄付講座」を開講。

2008年

6月14日 「第1回労働法講座(基礎コース)」を開催。
～15日 催。(東京・総評会館)



2009年

5月29日 連合新書『労働組合必携シリーズⅠー壁を壊す』を発行。

2010年

7月30日 連合新書『労働組合必携シリーズⅡー地域を繋ぐ』を発行。



2011年

5月 教育文化協会の活動案内パンフレットの改訂版を発行。



2012年

6月26日 Rengoアカデミー・マスターコース10回記念シンポジウム・交流懇親会。(東京・連合会館)

10月4日 地方連合会が主催し、教育文化協会が財政支援や開設準備に協力する「地方連合会寄付講座」が山形大学と佐賀大学で相次いでスタート。





2013年

- 2月15日 社団法人から公益社団法人への移行申請の準備を終え、移行後の組織運営などを審議する臨時総会を開催。
- 7月1日 社団法人教育文化協会から公益社団法人教育文化協会へ移行。
- 9月17日 法政大学で「連合寄付講座」を開講。

2014年

- 10月8日 ワークルール検定のさらなる普及・発展を図るため設立された「日本ワークルール検定協会」が発足、ワークルール検定の実施・運営に協力。

2015年

- 9月30日 『日本労働運動史事典』を発行。
- 10月28日 連合総研フォーラム「景気の行方とこれからの働き方」を開催。(連合総研、連合と共催)

2016年

- 2月5日 「幸せさがし文化展」で、ネパール児童への特別審査員賞表彰式参加、非正規学校への記念品贈呈。

2017年

- 4月12日 中央大学で「連合寄付講座」を開講。
- 9月29日 Rengoアカデミー・第16回マスターコース初の試みとして、修了式に先立ち修了論文報告会を実施。(東京・連合会館)

2018年

- 6月30日 連合新書20『ものがたり現代労働運動史1』を発行。

2019年

- 9月30日 東京工業大学(現・東京科学大学)大学院で「連合寄付講座」を開講。

11月14日 公益財団法人日本労働文化財団との統合にかかる契約書の調印。

2020年

7月1日 公益財団法人日本労働文化財団との統合。統合により、法政大学大学院連帯社会インスティテュート（通称連合大学院）の運営・支援が新たにILECの事業となった。



2021年

2月1日 教育文化協会・日本労働文化財団統合記念映像の公開。
10月20日 『連合大学院 6年間の総括 ～第5期生修了にあたって～』を発行。



2022年

8月3日 コロナ禍で交流が制限された第19回、第20回の受講生を対象に、Rengoアカデミー・マスターコースフォローアップ交流会を開催。



2023年

3月22日 連合大学院の専任教員、連帯社会研究交流センター長を務められていた中村圭介教授の最終講義・謝恩会を開催。

2024年

4月26日 実践女子大学で「実践キャリアプランニング」に協力。全14回講義のうち4回を教育文化協会が担当。



2025年

4月16日 明治大学で「連合寄付講座」を開講。
10月28日 連帯社会インスティテュート（連合大学院）設立10周年シンポジウムを開催。



連合が行う大学寄付講座

- ◆ 教育文化協会が直営する「連合寄付講座」
- 地方連合会が主体的に運営する「連合寄付講座」

